



四国ろうあ連盟  
KIZUNA

2017年12月1日  
第48号

768-0051 観音寺市木之郷町1116番地1 西讃ふくろうセンター  
四国ろうあ連盟 FAX 0875-27-7708  
ホームページ <http://seisan-fukurou.jp/publics/index/13/>

発行人：竹島 春美  
編集人：近藤 龍治

## 手話の拠点をもう一度

### ～四国手話学習会 手話でGo! 香川～

2017年11月19日(日)高松市総合福祉会館で、四国手話学習会 手話でGo!2017を開催しました。

86名の参加でした。

全国手話研修センター後援会会長清田廣氏をお招きして、「全国手話研修センターの役割と後援会の意義と将来」と題してお話していただきました。

全国手話研修センターは、ろう者、手話関係者にとって欠くことができない大切な施設です。残念ながら後援会の入会者の数は少ないです。

近い将来、手話言語条例が制定されるでしょう。手話そのものをもう一度考えたいと思った講演会でした。



ました。

第3分科会は、慣用句・ことわざや流行語ことば遊びを手話でどう表現するかを学び、第4分科会は、忘れられた事件を2つ取り上げて解説しました。どれも有意義な分科会でした。

午後からは、4つの分科会に分かれてそれぞれ学びました。第1分科会は手話でゲームするなど楽しく学び、第2分科会は手話の創作の報告を聞いたり新しい手話を考えたりし



## ろう重複障がい者の支援の課題と対処

### ～情報提供の必要性～

11月3日(金・祝)四国ろう相談支援研修会を西讃ふくろうセンターで開催しました。

愛媛より事例を取り上げ、発生から対処までの報告がありました。

問題点を整理し、支援や対応などについて意見交換をしました。

ろう者の背景はもちろん把握する必要がありますが、当事者の思いや考えをくみ取らなければならないむずかしさも感じました。

ろう者は聞こえないだけの問題ではなく、知的や精神といった障がいも重複している場合もあり、それぞれに違った対応が求められます。

研修会を重ねるたびに、研修や学習も重要になってきます。



### ～相談支援者の育成急務～

専門性の高い支援が必要になり、今後の研修の在り方も考えなければならないと思います。

また、支援者も高齢化して、支援者の育成についても課題が浮き彫りになっています。

1. 仲間づくり(人・場所)
2. 地域との連携(校に絡める)
3. 卒業への支援

大切さを確認

### ☆全国手話研修センター後援会入会呼びかけ☆

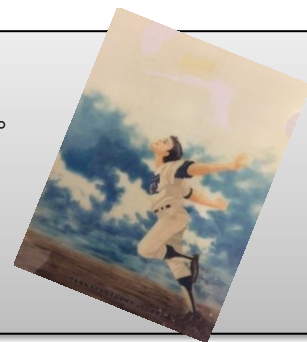
四国手話学習会を開催すると同時に、後援会の入会の呼びかけをしました。

17名入会していただきました。ありがとうございました。

まだ入会していない方は、ぜひお願いします。

それから、山本おさむ氏イラスト付きのクリアファイルを1枚200円で販売しております。

ご希望の方は、各県協会事務局までお申し付けください。



### ◆編集後記◆ 四国ろうあ連盟「K I Z U N A」第48号をお届けします。

★登録手話通訳者の年齢層をデータ資料で見ました。20代はひとりかふたり、30代から40代は何人かいて、さらに50代以上の方はたくさんいました。70代の人何人もいました★手話通訳者も高齢化問題に頭を悩ませています。若手を育てなければならぬと思いました★それだけではありません。ろう者も高齢化により手話通訳利用数が減っています。家にいることが多くて情報が不十分なため、たまに通訳を依頼すると新たなろう者の問題が見えてきます★ろう者の権利と生活を守ろうと、ろう運動を始めた私たちにも限界が来ているのではないかと危惧しています★コミュニケーション支援だけでは無理があると思い知らされました★掲載して欲しい原稿は、四国ろうあ連盟事務局、もしくは各県協会にご連絡ください。お待ちしております。